

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593197

研究課題名(和文)屋根瓦方式アクションリサーチによる新任医療安全管理者の実践力強化プログラムの開発

研究課題名(英文)Development of action research program in which the experts support the new risk managers

研究代表者

内田 宏美(Uchida, Hiromi)

島根大学・医学部・教授

研究者番号：30243083

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：新任の医療安全管理者(RM)の組織横断的管理における実践力を高めるために、2013年と2014年に、経験豊かなRMと看護学研究者が「屋根瓦方式」で二重にファシリテートするアクションリサーチを行った。参加した新任RM19名中15名は、困難な課題に対してPDCAサイクルを展開することができた。19名の、医療安全活動得点、リーダーシップ得点、管理者用コミュニケーション・スキル得点の総計の中央値の比較では、終了時の得点が開始時より有意に高かった。以上より、屋根瓦方式アクションリサーチは、RMの組織横断的管理能力を高める可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study is the action research to enhance the practical skills in new risk managers. Nineteen new risk managers were supported by the experts and the nursing researchers with the double facilitate as the "roofing tile". The results were evaluated from the viewpoint of problem-solving performance, medical safety activities, leadership, and communication skills. As a result, 15 out of 19 new risk managers were deploying PDCA cycle for the daunting task. So that, total score of medical safety activity, leadership, administrative communication skills was significantly higher at the end than at the beginning on all the members. This method may increase the administrative competency of the medical risk manager suggest.

研究分野：看護管理学

キーワード：医療安全管理者 アクションリサーチ 屋根瓦方式 人材育成

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 研究に至る経緯

平成 20～23 年度科学研究費補助金（基盤研究C・課題番号 20592489）による「アクションリサーチによる看護職医療安全管理者のスキルアップ支援プログラムの開発」において、医療安全管理者の職にある看護職の主体的参画により、研究者とともに現実の問題の解決を図る実践的アプローチとして、アクションリサーチを実行した。その結果、看護職の医療安全管理者は、安全で質の高いケアを実現したいという願いに動機づけられて困難な課題に向き合い、アクションリサーチをとおして戦略的に問題解決を図るようになり、医療安全活動全般にわたる実践度とリーダーシップ得点が有意に上昇したことから、アクションリサーチの有効性を確認した。しかし、看護職の医療安全管理者は、一人前になる3年程度で交代することが多く、研修修了者には即戦力としての実践力が求められる。そのため、新任者には医療安全管理活動が展開できるよう支援するフォローアップ教育が重要となる。そこで、豊かな経験知を持つ医療安全管理者が新任医療安全管理者をファシリテートする屋根瓦方式のアクションリサーチを試みることにした。

### (2) 意義・独自性

この研究の独自性は、新任の看護職医療安全管理者の実践力の効率的強化のための方法として、経験豊かな医療安全管理者と研究者が二重にファシリテートする屋根瓦方式のアクションリサーチを取り入れる点にある。新任医療安全管理者を経験豊かな医療安全管理者が支える屋根瓦方式のアクションリサーチの成果が立証されるならば、短期集中型の講義・演習中心の医療安全管理者養成研修等を補完する、実効性の高い医療安全管理者のフォローアップ教育システムを構築することができる。

## 2. 研究の目的

医療安全管理者養成研修修了後、即戦力として現場の問題解決に当たること困難が予想される新任医療安全管理者の実践力強化のために、実効性の高いフォローアップ教育法として、経験豊かな医療安全管理者と研究者の二重のファシリテートによる屋根瓦方式のアクションリサーチを実践し、その効果を実証する。

## 3. 研究の方法

(1) デザイン：アクションリサーチによる縦断的研究（パネル研究）

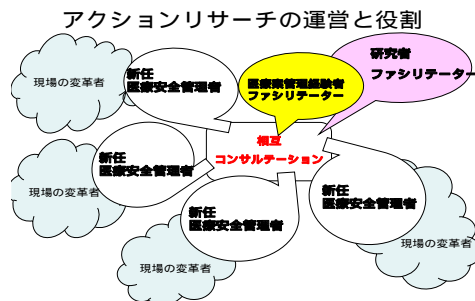
(2) 対象：

島根県看護協会の協力を得て、看護協会主催の医療安全管理者フォローアップ研修参加者から有意抽出した。

医療安全管理者養成研修を修了した現職1年目の医療安全管理者、及び、ファシリテーターとして3年程度の医療安全管理経験者。（平成26年のみ、中小規模病院の医療安全管理者を対象とした。）

(3) 期間：平成24年、25年、26年。毎年、メンバーを刷新して、年5回のワークショップを開催した。

(4) アクションリサーチの進め方：



(5) 評価指標及び分析方法

個人別に、医療安全推進行動、トップのリーダーシップ行動、管理者の社会的スキルのアクションリサーチ前後の項目別、カテゴリ別得点の変化を確認した。

参加者全員の医療安全推進行動、リーダーシップ行動、社会的スキル得点を、アクションリサーチ前後の項目別カテゴリ別にマン・ホイットニーU検定により比較した。

実施記録の記述内容から、PDCAサイクルの展開状況を確認した。

(6) 倫理的配慮

平成24年5月14日付で島根大学医学部看護研究倫理委員会の承認を得た後、研修主催者（S県看護協会）の許可を得て実施した。研究者が研究の意義・目的・方法、個人情報を守秘されること、同意と同意撤回の自由等についての具体的で十分な説明を行った後、候補者の自由で主体的な参画意思に基づいて実施した。調査票への回答により、研究参加の同意とした。参加者の個人情報を保護するため、データはIDで管理した。

#### 4. 研究成果

##### (1)平成 24 年度の成果

経験の浅い医療安全管理者 11 名、ファシリテーターの経験豊かな医療安全管理者 3 名、グループ内の相互コンサルテーションをファシリテートする教員 4 名で、3 グループを編成して屋根瓦式の支援体制を作り、アクションリサーチを展開した。7 月、9 月、11 月に開催し、平成 25 年 3 月の報告会で総括した。2 名が個人的理由で離脱したため 9 名の分析を行った。

9 名中 7 名は PDCA サイクルを順当に展開し、課題解決に達したが、2 名は、課題解決の方向性を見出す段階に留まった。課題解決に至った 7 名は、リーダーシップ得点、コミュニケーションスキル得点の上昇が見られ、全員の集計においても、有意差がみられた。課題解決の実績と、トップのリーダーシップ能力自己評価特典の変化、及び、管理者のコミュニケーションスキル自己評価得点の変化は連動していることが確認されたことから、三隅のトップのリーダーシップ測定尺度及び、Kiss18 管理者用コミュニケーションスキル測定尺度は、医療安全管理者の組織横断的実践力の評価尺度として活用できることが裏付けられた。

##### (2)平成 25 年度の成果

経験の浅い医療安全管理者 10 名、ファシリテーターの経験豊かな医療安全管理者 3 名、グループ内の相互コンサルテーションをファシリテートする教員 4 名で、3 グループを編成して屋根瓦式の支援体制を作り、アクションリサーチを展開した。5 月、7 月、9 月、11 月に開催し、平成 26 年 1 月の報告会で総括した。

10 名のうち 2 名の問題解決は期待の域に達していなかったが、8 名は、アクションリサーチをとおして PDCA サイクルを展開して具体的な実践による課題の解決を図ることができていた。アクションリサーチ前後の 10 名分のデータのデータを比較分析した結果、全項目得点および全カテゴリ得点について、事後の得点が高くなっており、一部は統計的にも有意差があった。

##### (3)平成 24・25 年度の総合評価

2 年分、計 19 名の新任医療安全管理者のアクションリサーチ前後の自己評価得点を示した（黄色の背景の項目は有意差有）。

医療安全活動カテゴリ	中央値		平均値	
	pre	post	pre	post
データの提示	11.0	11.0	10.3	10.9
情報の共有	13.0	13.0	11.5	12.5
ルールの浸透	11.0	11.0	9.8	10.5
研修の工夫	10.5	11.0	9.4	10.8
横断的コミュニケーション	11.0	10.0	9.0	10.0
横断的調整	11.0	12.0	9.8	11.2
医師の権威への対応	9.0	9.0	7.9	9.4
看護部の活用	10.0	12.0	9.5	11.3

(Wilcoxon の符号付き順位検定)

トップリーダーのリーダーシップカテゴリ	中央値		平均値	
	pre	post	pre	post
企業目標達成項目	74.0	86.0	71.8	83.0
外部環境適応項目	34.0	43.0	35.0	42.4
現場活性化項目	19.0	21.0	19.1	21.2
経営目標・理念項目	7.0	9.0	7.8	9.3

(Wilcoxon の符号付き順位検定)

Kiss18 コミュニケーションスキルカテゴリ	中央値		平均値	
	pre	post	pre	post
トラブルシューティング	19.0	21.0	18.3	20.4
マネジメント	16.0	17.0	15.7	17.5
コミュニケーション	14.0	17.0	14.5	16.4

(Wilcoxon の符号付き順位検定)

##### (4)屋根瓦式アクションリサーチによる新任医療安全管理者の実践力強化プログラムの有用性と課題

参加者の 9 割が、組織横断的活動における解決困難な課題の解決に至り、医療安全活動度が全体的に上昇し、中でも横断的活動や医師への対応、看護部の活用など、困難度の高い領域の活動度が高まった。また、トップに期待されるリーダーシップ得点が上昇し、管理者に期待されるコミュニケーションスキル得点も上昇した。

以上より、屋根瓦式アクションリサーチは、現実の課題を解決していく経験をとおして、看護職医療安全管理者が病院全体の組織横断的な医療安全活動を行う能力の向上に寄与する可能性が示唆された。

一方、医療安全管理者として登録されてはいるものの、職位が低く、兼業での活動を余儀なくされている者の活動性は低く、アクションリサーチの成果も十分には確認されなかった。

したがって、医療安全管理者が経験者の支援を受けながら課題解決に取り組むためには、その前提として、医療安全管理者のポジションや権限が保障されるなどの基盤整備が必要であると考えられる。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

宮本まゆみ、津本優子、福間美紀、桑垣麻里子、坂本裕二、内田宏美: 離床センサーを用いた転倒リスク患者の李承行動の実態調査、医療の質・安全学会誌、査読有、Vol.8、No.4、2013、317-323

内田宏美、津本優子、樽井恵美子、小野田舞、長田京子、宮本まゆみ、福間美紀: アクションリサーチによる看護職医療安全管理者のスキルアップ支援プログラムの開発報告書、2012、全129頁

[学会発表](計7件)

津本優子、内田宏美、福間美紀、宮本まゆみ、竹田祐子: S県看護協会主催の医療安全管理者養成研修終了者の活動状況の実態調査 第2報 医療安全活動の実践状況、第34回日本看護科学学会学術集会、名古屋国際会議場(名古屋)、2014.11.29-30

福間美紀、内田宏美、津本優子、宮本まゆみ、竹田祐子: S県看護協会主催の医療安全管理者養成研修終了者の活動状況の実態調査 第1報 研修者の動向について、第34回日本看護科学学会学術集会、名古屋国際会議場(名古屋)、2014.11.29-30

内田宏美、津本優子、福間美紀、宮本まゆみ、竹田祐子、土江加寿子、三原美津江、山藤美穂、舟木裕子: 屋根瓦式アクションリサーチによる看護職医療安全管理者の問題解決能力強化の試み - 組織横断的实践力とリーダーシップの観点から、第9回医療の質・安全学会学術集会、幕張メッセ(千葉)、2014、2014.11.22-24

三原美津江、内田宏美、津本優子: インシデントに対する個人認識と部署・病院全体の取り組みの受け止め、第17回日本看護管理学会年次大会、東京ビックサイト(東京)、2013.8.24-25

内田宏美、津本優子、福間美紀、宮本まゆみ: 屋根瓦式アクションリサーチによる新任医療安全管理者の実践力強化の試み、第17回日本看護管理学会年次大

会、東京ビックサイト(東京)、2013.8.24-25

象谷五十美、内田宏美、津本優子: A系列病院における看護師長の役割実践度とその要因、第16回日本看護管理学会年次大会、札幌コンベンションセンター(札幌)、2012.8.23-24

内田宏美、津本優子、宮本まゆみ、長田京子、福間美紀: アクションリサーチによる看護職医療安全管理者のスキルアップ支援、第16回日本看護管理学会年次大会、札幌コンベンションセンター(札幌)、2012.8.23-24

[図書](計2件)

任和子編集:病棟に役立つ! みんなの看護管理、内田宏美: 第2章組織的リスクマネジメント他分担、2013、全158頁(うち分担計13頁)

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

内田 宏美 (Uchida, Hiromi)  
島根大学・医学部・教授  
研究者番号: 30243083

(2)研究分担者

津本 優子 (Tsumoto, Yuko)  
島根大学・医学部・准教授  
研究者番号: 30346390

(3)研究分担者

福間 美紀 (Fukuma, Miki)  
島根大学・医学部・講師  
研究者番号: 40325056

(4)研究分担者

竹田 裕子 (Takeda, Yuko)  
島根大学・医学部・助教  
研究者番号: 60598134

(5)研究分担者

宮本 まゆみ (Miyamoto, Mayumi)  
島根大学・医学部・助教  
研究者番号: 80551746

(6)研究分担者

長田 京子 (Osada, Kyoko)

島根大学・医学部・教授  
研究者番号：90325051